

No.97 潮田 友子 —無題—

Tomoko Ushioda

北川フラムさんのコラム / 1998 (平成10) 年8月15日付 立川市市報記事より

潮田さんは物を積み重ね並べることに興味を持っているという。一つの立方体の中にすでに全体が含まれていることに、創造物の出発点を見るからだ。

赤ん坊や幼い子どもは積み木で遊ぶのが大好きだ。ひたすら積み重ね並べる行為そのものが楽しいのは、そこに物をつくる面白さの原点があるからで、子どもの造形が美しいのは、そうした創造の原理が最も単純な形で現れているからかもしれない。

潮田さんの作品は、そんな造形の初源の楽しさを思い起こさせてくれる。二つの塔があり、その一つの上に立方体が載り、これら全体がまたこの立方体の上に載っている。

5センチ角のキューブの組み合わせが入れ子構造になった車止めは、「部分が全体であり、全体は部分である、世界を映し込むファーレ立川」というコンセプトをも映し出している。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現:UR都市機構) 「ミニ通信」より

私は5×5×5cmの金属製立方体ブロックを積み上げた、高さの異なる二本の柱が隣り合って並列している構造物を車止めにしました。

その高い方の柱は25×25×95cmの直方体であり、その上に15×15cmの立方体、そしてその上には又それら全体を模倣する積み木細工の形態が置かれています。

他方、低い方の柱は25×25×40cmの直方体で、子供であったらそれを踏み台にして高い方の柱をのぞき込むかもしれないし、またそこに座して街や行きかう人々、そして車を眺めるイスであっても良いと思っています。

あるものを積み重ね並べるということに私は興味をもっています。

一つの物を取り上げるとほかのものもついてくるという、つまり一つの立方体の存在の中にすでに全体の形態の総てが包含され、それが生みだされうることです。

ファーレ立川の街並もそこに置かれた一つ一つの作品の存在が街全体の過去と未来を生みだすことになるでしょう。

最後に技術的に困難な私の創造物を現実化して下さったスタッフの皆様に感謝申し上げます。